

『繋がる剣道』

富山県

婦中町少年剣道教室

中学2年 藤原佑芽

「全中へ行こう！」

小学校の卒業を目前に、私達5人は誓い合った。陰では「婦中ギャルズ」と呼ばれているらしい私の仲間達はとてもマイペースな今時女子達です。

中学に入り、それから間もなく私は現実を知ることになりました。

試合に行けば、中学から剣道を始めたと思われる人も、会うたびにどんどん強くなっているのに私達は…

経験者が5人そろったといっても一人一人の力はものすごく小さく、そんな5人がそろったところで、私達は弱いチームでしかない。

いつからか私に、「全中に行きたい?」という希望よりも、「こんなんでも全中なんてムリじゃん?」という絶望に似た気持ちが襲ってくるようになっていました。

今年の6月、私は兄も出場するインターハイ予選を見に行きました。

私の兄は中学生から剣道を始めました。始めた頃は、自分より上手な小学生を相手に、劣等感と戦っているように見えたし、真っ暗な部屋で一人でこっそり泣いていたことも私は知っていました。それでも剣道が大好きな兄は、かっこいい選手の話や、どこがどんな風にかっこいいのか、私や母に、いつもにこにこ話していました。

準決勝。そんな兄のチームの対戦相手は、兄の憧れていた先輩や、県内でも名前が通った選手がずらりと並んでいます。実力では相手チームが上…。そんな風に見えていた私でしたが、先鋒、次鋒、中堅と一人一人の全力の戦いにドキドキがとまりません。副将の兄の相手は、県チャンピオン。兄が中学生の頃からかっこいいと話していた先輩です。そんな相手と兄が試合をするのです。

「始め!!」

そこには、いつもの優しい兄の姿はなく、戦う兄の姿がありました。私は祈るような気持ちで見つめていました。

そして合メン!!

「メンあり!!」

私は自分の見た光景を確認するため、何度も審判を見返しました。確かに旗は兄の方に上がっています!!兄は、県チャンピオンを相手に、副将としての自分の役割を果たし、大将に繋ぐことができたのです。

大将の激戦の末、結果は、兄の高校は本数差で惜しくも敗れてしまいましたが、私はものすごく興奮していました。感動していました。「すごい!!すごい!!」私ほうまく言葉にならない

い気持ちをなんとか母に伝えました。母は、

「お兄ちゃんは一人で戦っていたんじゃない。みんなの気持ちと一緒に戦っていたんだよ。全員が、全員で戦っていたんだよ。」

そんな風に言って泣いていました。

結果だけを見れば負け。でも私は、そんな兄達の試合から教えてもらいました。

先鋒はみんなの想いを胸に全力で戦い、次鋒に想いを繋ぐ。次鋒は中堅に、中堅は副将に…。そんな風に、どんどん大きくなった想いを大将まで繋ぐことは、一人のちっぽけな力を、何倍にも何十倍にも変えることができるのです。

そして私は、剣道で繋がった、沢山の先生方や道場の枠を超えた仲間達、先輩達から、苦しい時、逃げ出したい時、沢山の元気と勇気をもたらしてきたことを思い出していました。

私を繋ぐ、兄を繋ぐ、すべての皆様への感謝の気持ちが溢れます。

繋ぐ剣道。

繋がる剣道。

私達は一人じゃない。

私から何十倍、何百倍ものパワーが溢れる。

あきらめるのはまだ早い。

「よーし、これからだ！」